

# 2018年度(2018/4~2019/3) 事業報告書

公益社団法人 日本動物福祉協会

## 1. 環境

2018年は、米中貿易摩擦の激化や米国の利上げにより、中国や新興国の景気に陰りが見える中、年後半にかけて米国株価の大幅下落を惹起し、それにつられる形で日本経済も下方修正を余儀なくされました。

当協会を取り巻く環境としては、懸案であった会員増加や持続的寄附増強スキームの構築に尽力した結果、財務基盤の安定に一定の前進が見られました。また、公益性の観点から助成や救護の基準や体制を見直すことで、安定的な事業拡大実現への基盤を整備して参りました。

## 2. 会員の増減

### (1) 個人会員(終身・維持・賛助・青少年)

①2018年度末の会員数は2826名(内 終身150名・維持246名・賛助2405名・青少年24名・名誉1名)と前年度比98名増加した。

②新規入会者は、2017年度の466名から310名と減少、退会者は186名から212名(内 会費滞納による自然退会者152名、自発的退会者55名、死亡5名)と増加した。会員へのキャンペーンメリットの供与を含め、関係者一同で注力したことが相応に実を結んでおり、今後とも地道な会員獲得努力を続ける所存。

### (2) 法人会員

2018年度末の法人会員数は29社で、新規入会が1社、退会が1社あった。

## 3. 募金・寄附活動

### (1) 持続的寄附スキームへの参画

企業の社会貢献活動としての寄附スキームに参画し当協会への持続的寄附を募る等、財務基盤の増強に努めた。

### (2) 慈善ビンゴ会

2018年度のビンゴ会は、2019年3月17日に実施され、経費を除いた募金額は509万円となった。

### (3) 動物カレンダー

カレンダーは2500部印刷し、2135部が配布された。製作費等諸経費を除いた募金額は316万円であった。

### (4) その他活動

各種のバザー等において、常陸宮妃殿下の翻訳絵本及びメッセージカード、Tシャツ、ポロシャツ等のオリジナルグッズの販売をしており、これによる募金額は110万円であった。

#### 4. 動物福祉事業

- (1) 不妊去勢手術の奨励のため、25年目を迎える「捨て犬・捨て猫防止キャンペーン」(当年度対象地域:大分県、愛媛県、島根県)に加え、当年度も会員を対象とした「JAWSのら猫キャンペーン」を実施した。不妊去勢手術助成対象総頭数は本部1800頭、支部等2593頭、計4393頭となり、助成金総額は2165万円となった。
- (2) 海外の保護団体等からの協力も得て、悪質事案の告発や動物救済移送を含め、動物虐待や救護・譲渡等の活動に注力した。動物救護費は1244万円であった。
- (3) 各自治体の動物愛護推進協議会等に参画し、動物愛護推進計画や緊急災害時の動物救護体制の策定に協力した。
- (4) 動物虐待を獣医学的および法律的な見地からアドバイスする、専門家による動物行政のための相談窓口を設置した。
- (5) 「動物との共生を考える連絡会」の幹事団体として、法改正に向けた活動や改正法に対する一般への周知に努めた。

#### 5. 教育及びPR活動

- (1) 収容された動物の環境問題等を取扱う「シェルターメディシンセミナー」を東京で2回開催し、獣医師やシェルター関係者に加え、多くの自治体職員の参加も得て好評を博した。
- (2) 産業動物福祉も含めた「RSPCA(英国王立動物虐待防止協会)講座」を実施し、動物に関わる仕事に携わっている多くの方々が参加した。
- (3) 災害が日本国内どこで発生しても、行政間において訓練を受けた人材による統率の取れた継続的な人的支援が都道府県の垣根を越えて可能となるように、行政職員等を対象として「災害派遣人材育成研修会」を開催した。
- (4) 近年動物虐待が増加する中、虐待を見過ごさず科学的に診断できる獣医師を増やすことを目的に「法獣医学研修セミナー」を開催した。
- (5) 海外から講師を招いて「展示動物福祉セミナー」を開催した。
- (6) 新しい飼い主探しの活動を充実させるべく共立製薬(株)の「里親マッチング」サイトに加わり実績を向上させている。
- (7) 「知っていますか?動物愛護管理法」をテーマとした動物愛護週間中央行事に参画した。
- (8) 青少年に対する啓発事業として「第59回動物愛護の作文コンテスト」を実施、2641篇の応募があった。
- (9) 広報誌「JAWS REPORT」を年2回発行し、行政や各自治体の関係部署・獣医師会・動物愛護団体等に配布、国内外の動物福祉情報の周知に努めた。
- (10) 教育や啓発活動に注力し、関連費用は949万円となった。

以上